

新型コロナウイルスはうつりやすい？

3月1日の新聞報道によると、新型コロナウイルス肺炎の感染者数はこの1ヶ月で10倍に急増し、地域も世界5大陸に広がったそうです。

では、新型コロナウイルスは、どれくらいうつりやすいのでしょうか。感染力を表す指標に基本再生産数があります。これは一人の患者さんから何人に感染させるかを示す数字です。最近の研究機関による分析では、新型コロナウイルスは3程度ではないかとされており、季節型インフルエンザの1.3を大きく上回る結果となっています。

右の表は、主な感染症の感染力を比較したものです。麻疹や水痘の感染力がいかに強いかわかるのではないのでしょうか。周囲の人に感染させないためにも麻疹・水痘などの定期の予防接種の重要性がご理解いただけると幸いです。



2月の感染症情報

インフルエンザの発症が少なく、2月中旬以降の定点あたりの報告数も4~6人/週でした。新型コロナウイルスの流行による衛生管理の徹底が、インフルエンザの発生を抑えているのかもしれません。

| 主な感染症における感染力の比較 | | |
|------------------|----------------|-------|
| 病名 | 感染力 | 感染の仕方 |
| 麻疹 | 12~18人 | 空気 |
| 水ぼうそう | 8~10 | 空気 |
| 風疹 | 5~7 | 飛沫 |
| 重症急性呼吸器症候群(SARS) | 2~4 | 飛沫 |
| 新型コロナウイルス | 各機関の平均 3.3 | 飛沫 |
| | WHO 1.4~2.5 | |
| 新型インフルエンザ(2009年) | 1.4~1.6 | 飛沫 |
| 季節性インフルエンザ | 1.3 | 飛沫 |
| 中東呼吸器症候群(MERS) | 1前後 | 飛沫 |

(注) 感染力は1人の感染者から何人に感染するかを示す(出所) 国立感染症研究所の資料などを基に作成

シリーズ キッズケア・青い鳥がめざす保育

～ 発達を学び、発達の一步前の活動を知ること、発達を促す保育を！～

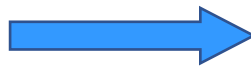
まとめ

～子どもの発達をねがい、共感することが絆をつくる～



自然に心から湧き出る、子どものねがい(発達の可能性とあふれる力)は、大人の「こんな子に育ててほしい」という願い、子どもの可能性を信じる心に育まれて矛盾を乗り越えていきます。

子どもは、感動・発見・あこがれをきっかけとしてあふれるように「ねがい」がわいてきます。
※経験が可能性を花開かせる力に！



自分の可能性に心ときめかせ、矛盾を乗り越えることで「自分らしさ」を発見します。
※できたことがうれしいと感じることが大切。

矛盾を乗り越える時間は子ども一人ひとり違います。大人は、子どものねがいに共感し、時には見守り、ヒントを与えながら、矛盾を乗り越えようとする時間を大切にあげましょう。

“発達子どもの願いから始まる”
白石正久著より

2月のご利用状況

2月の利用延べ人数は71名、一日平均利用人数は3.9人でした。年齢別では、2歳児が13人(18%)で最も多く、次いで3歳児の12名(17%)、1歳児の11名(15%)の順でした。疾患別では、急性上気道炎が29名で最も多く、次いでインフルエンザの11名の順でした。今年はインフルエンザの発生が極端に少なく、インフルエンザによる入室児童はわずかでした。2月下旬に市内の保育所で水痘が流行したため水痘による入室がありました。水痘にかかったお子さんのほとんどが、2回の定期接種を完了していました。そのため軽症例が多く水痘の診断に苦慮するケースもありました。水痘は2回の定期接種が完了していても発症することは珍しくないと思われたいと認識すべきだと思われました。